2006.8.21.

宮城県重症心身障害児（者）を守る会主催
「第８回地域交流懇談会　in　気仙沼」

講話・レジメ
「地域において重症心身障害児（者）の親として できること」

阿 部 幸 泰
「雑学」HP：http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/
「雑学」携帯（i ﾓｰﾄﾞ）用 HP：http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/i/

親として できること

イ）障害のある子どもの観方

“Children with disabilities are children, first.”

“ My child is not only mine, but also a person. ”

ロ）地域を地域の人々と共に育てること。
地域に、我が子がいることを知ってもらう努力をすること。
（プライバシーの側面との葛藤もあるだろうが、ある程度は勇気をもつように。）

ハ）障害児がいる親（特に母親）は、初期段階では孤独、孤立になりがち。
先輩親たち、関係機関（者）は、「いつも、側にいますよ」と常に声がけを心懸けるように。

「相手を理解するのでなく、相手が自分を理解者と認めてくれる関係を築くこと。」

“Not doing,　But being.”

ホ）親同士連携、連帯すること。
一人、二人では遠慮や声が小さくなりがち。
→　親同士連携して声を大きくするように。　←　他地域の親からも知恵を借りること。

障害者自立支援法では、各市町村が窓口だが、重症児を知らない各市町村の行政機関（者）が多い。　←　各市町村の担当者を育てるのも、親の任務。

「専門家は、指導や助言以上に、親の不安感を取り除いてください。
親にエネルギーをいっぱい与えてください。
そうすれば親子で前向きに生きていく勇気が生まれます。
それは、障害を治すことと同じくらい、いえ、それ以上にありがたいことです。」

ヘ）「地域で共に生きる社会」とは
単に地域の福祉資源を利用することだけではない。
それ以上に、地域の方々（親も含め）が共に生活する地域社会の構築、意識改革こそが必要であり、目標となる。　→　地域とは、場所でなく、地域の人々との繋がり。

支援の輪広げよう

重症心身障がい児　地域交流懇談会

気仙沼

県重症心身障がい児（者）を守る会（秋元俊通会長）と気仙沼保健福祉事務所共催の「地域交流懇談会in気仙沼」が二十一日、同事務所で開かれた。

重症児（者）を抱える家族を地域の中で支えていくため、障がい児（者）への理解を深めてもらうとともに、支援の輪を広げようーと初めて開かれたもので、家族をはじめ、市町関係者や各社協、施設の関係者ら約五十人が出席した。

秋元会長は「親同士が仲間を作り、相談しながら、行政にニーズを聞いてもらえるような環境をつくっていかなければならない」とあいさつ。

同会の紹介のあと、地域生活プランナーの鈴木陽子さんの「地域福祉コーディネーターの役割」についての講演と、尚絅学院大学の阿部幸泰さんの「地域において重症心身障がい児（者）の親として出来ること」の講話があった。

阿部さんは「障がい児である前に子供なんです。子供も理解し、支援してもらうためにも、親が勇気を持ち、地域に我が子がいることを知ってもらう努力をすることが大事です。そのためにも親同士の連携が大切」と話していた。

講話する阿部幸泰さん